

第3回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)
19、20は国字で答えること。

(三) 次の1〜5の意味を的確に表す語を、後の□から選び、漢字で記せ。(10)
2×5

- 1 春日遅遅として卉木萋萋たり。
2 浅深粧い駁落たり、高下火参差たり。
3 田の高下礮映宜しき所に随いて雑植す。
4 消化管の壅塞所謂膈噎の病を患う。
5 不始末を為出来し散散に打擲された。
6 略千鎰の価で引き取られた。
7 草臥れた繭紬の羽織を引っ掛けている。
8 子貢、師の言を聞きて吁然たり。
9 時臚臚として且に且ならんとす。
10 詆訐の民有りと雖も依る所無し。
11 君に勸む金屈厄、満酌辞するを須いず。
12 家皆亡滅して衆庶の中に汨没す。
13 何れの時か杯を傾け壺罌を竭くさん。
14 珥貂の頭官中一際權勢を揮った。
15 靈牀上の屏風、出して之を暴曬す。
16 生死は人の常、何ぞ怕怯するを須いん。
17 世に母望の福有り、又母望の禍有り。
18 委虜虎に似て角有り、能く水中を行く。
19 言唯唯として笑い哇哇たり。
20 痴兒呉歌を踏み姪姪譌音を足す。
21 巫山戯て嗾すのではなかった。
22 私かに嫂に思いを寄せていた。
23 篋を撓むるに片目をふさぎてす。
24 秋刈り冬取むる騒きはなし。
25 是に究め是に凶り亶に其然るか。
26 安宅を曠しくして居らず。
27 朕が志先ず定まり詢謀僉同じなり。
28 則ち席を布くに席間に丈を函る。
29 誰か其之を尸る、斉せる季女有り。
30 上孤を恤れみて民倍かず。

- 1 車のフロントがヒシヤげている。
2 辺り憚らずキワドい話をする。
3 意外外にテコズった。
4 涙がサンゼンと頬を伝った。
5 サヅかし無念であったろう。
6 ヒダルい腹をかかえて歩き続けた。
7 トウ椅子の上で微睡む。
8 御ケンコに与り感謝に堪えません。
9 彼女の一言がテキメンに効いた。
10 グハン少年と認める事由を挙示する。
11 ビヨウのため欠席すると連絡があった。
12 ショウシヤな身形で会場に姿を見せた。
13 山の芋をワラツトに包んで持参する。
14 仏・菩薩が神となってスイジャクする。
15 故人のミエイクが厳かに執り行われた。
16 旧家の令嬢としてのキヨウジがあった。
17 天才を謳われる梨園のキヨウジである。
18 本尊の左右にキヨウジが描かれている。
19 名を聞くなりヤガて涙に咽んだ。
20 湖の魚道にエリを仕掛ける。

- 1 くつろいで過ごす。暇で家にいる。
2 囲碁に耽る。遊びに夢中になる。
3 托鉢あるいは乞食。
4 通訳官。通辞。通弁。
5 どっちつかずのあいまいな態度。
あんご・いいい・いんいつ
えんきよ・しようしょ・ぼうよう
らさい・らんか

(四) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1 次の四字熟語の(1〜10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20)
2×10

- (1) 三尺 気韻 (6)
(2) 当路 菜圃 (7)
(3) 毛長 咬文 (8)
(4) 在側 暗香 (9)
(5) 殉葬 兵馬 (10)

こうそう・さいろう・しゃくじ
すいぜん・せいどう・そえい
ばくろう・ばそう・ふくこう
らんてい

問2 次の1〜5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)
2×5

- 1 親を思う心の切なること。
2 心配りが行き届いていること。
3 なりふりかまわずこびへつらう例え。
4 広く学び見識を高める。
5 外敵の侵略を寄せ付けぬ国の喩。

- 瑣碎細膩・鑿窓啓牖・讒諂面諛
吮癰舐痔・伯俞泣杖・衣錦尚絀
中權後勁・金甌無欠

1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(五) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1 海豹  | 6 噴雪花 |
| 2 金糸魚 | 7 射干玉 |
| 3 河貝子 | 8 灯台木 |
| 4 専女  | 9 媒鳥  |
| 5 丁翁  | 10 埃及 |

(10)  
1×10

(七) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。  
□の中の語は一度だけ使うこと。

対義語	類義語
1 陞叙	6 貴紳
2 謙退	7 寄進
3 直参	8 妄誕
4 出離	9 放縦
5 鴟梟	10 鴻基

(20)  
2×10

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分(20)を漢字で記せ。

- 1 大は棟梁と為し、小はスイカクと為す。
- 2 イガグリも内から割れる。
- 3 咽喉ユウヒの地。
- 4 身を終るまでク口を譲りても一段を失わず。
- 5 ウジサジ物言わず。
- 6 家にヘイソウ有り、之を千金に享つ。
- 7 ゲンケンの貧。
- 8 命を信ずる者はジュヨウ亡し。
- 9 シュソクの頭目を扞ぐが如し。
- 10 シンリヨウを積むが如し。

(30)  
2×10  
1×10

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

- 〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょう  
す ぐ
- |        |       |
|--------|-------|
| ア 1 溥天 | 2 溥い  |
| イ 3 愒陰 | 4 愒る  |
| ウ 5 嫗育 | 6 嫗める |
| エ 7 繳進 | 8 繳める |
| オ 9 拆閱 | 10 拆く |

- |               |
|---------------|
| しし・しんしん・せんじょう |
| ばいしん・はんえん・ひき  |
| へんせき・ほうが・もうろう |
| らんぼう          |

(九) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

**A** 城中荒廃凄凉として賊徒処々に集群して縦に口リヤクし、逃走する者あり、キウウコクする者あり。其の惨状見るに忍びず。スミスチヨウゼンとして彼マリーを憂い、其の家に詣りて流覽すれば、銀台瑤欄は已に廢園頹牆となれり。然れどもマリーの室は猶依然として存し、薰炉香残して恵帳空しく張り、窈窕人去りて風氣亦腥し。スミス之を見て佇立タ<sup>4</sup>ンサセり。会マリーの小妹ダリスの来るあり。乃ち問いて曰く、マリーは今安<sup>い</sup>くに在るや。ダリス一寺門を指して曰く、彼ここに在り。スミス即ち之に赴き、寺僧を呼び其の状を訊わんとす。

(プーシキン「露国奇聞花心蝶思録」(高須治助訳)より)

**B** 彼をして經典に倚らしめたるもの、抑いかなる鬼物の神力ならん。他ならず、この一瞬時の発露刀なり、心機妙変なり。彼の如きものをして、志の壮偉なる事は全盛の平家を倒して孤島ヒヨウラクの人を起こす程にありて、而して胸中一物の希うところなく、ただ一寺の建立を願欲せしむるに過ぎざりしもの、抑奈何の故ある。曰く彼時の変化なり。熱烈の舌一世を罵り、豪快天地を嘲るが如き挙動を為しながら、別に一片の真率無慾なるところ、専念回向するところ、メイモク静思する処、殆ど数個の人あるが如き觀あるもの、何ぞや。曰く、彼時の発心なり、彼時の心機妙変なり。噫この荒法師が、筐中常に彼可憐の貞女の遺魂を納めて、その重荷を取り去ることを得ざりしと、ケンバクに難行して、胸中の苦熱鎖し難き痛惱とは、アニ生悟りの聖僧の能く味わうを得るところならんや。

(北村透谷「心機妙変を論ず」より)

**C** 思えば能士の尊敬、美人の圍繞も、富豪其の人を尊敬し、其の人を圍繞するに非ずして、富豪其の物を尊敬し、其の物を圍繞するに止まり、其の物を蚕食し了れば、啻に其の人の艱厄を痛歎せざるのみならず、進んで之を死地に陥落することさえ有れば、雍々たる歡樂を極むるも、ムリ仮空の歡樂にて、俳優の舞台に瓊筵を催すに異ならず。況んや、リンシヨクけちん坊、貨幣の中に起臥するに至っては、鉞山の巖窟に投じて餓鬼の所行を倣うに違わんや。豹死して皮を留め、人死して名を留む。忠臣の奸邪を除き、節士の大難に斃るる、芳名を永遠に伝うるやに思われるれど、姓名を記憶する者なく、事蹟を称揚する者なく、幽谷の樵叟獵夫、曠野の蚊蚋蜂蝶と均しく永く凋落堙滅に帰し終わらん。

(三宅雪嶺「哲学涓滴」より)